

源氏物語入門—古典は本当に面白い—

藤澤敏行

源氏物語入門

桐壺更衣 六条御息所
明石君を中心に

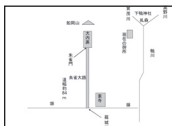
～京都は本当に面白い～

(これは平成22年現任校のオープンスクールで一般の方を対象とした講座を23年の研究懇話会で発表したものです。パワーポイントを用いています。紙面の都合でスライド数をかなり省略しています。また小さくて見えにくいですが御寛恕お願いします。内容も多く省略しています。)

保護者と話をしている中で源氏物語や京都の話で盛り上がり、オープンスクールで、自分の取りためてきた京都の写真を中心にした、一般の方を対象にした標記の講座を行うことになりました。同時に、藤澤は源氏物語をこう教えているということを示したいとの思いもありました。

多くの教科書では「桐壺」「若紫」「夕顔」「須磨」「御法(紫上の死)」そして宇治十帖などを取り上げています。確かにその部分は面白いのですが、教科書通り教えると切れ切れになり、これで生徒が源氏物語に興味を持つだろうかと思ひ、3人の女性(桐壺更衣・六条御息所・明石君)に焦点を絞って教えることにしました。

1 京都と源氏物語



平安京は794年桓武天皇によって都となりました。町づくりの決め手となったのが船岡山と言われています。真南に「内裏」「朱雀大路」そして「羅城門」が作られます。「東寺」だけは当時と変わっていません。現在の御所は1855年(安政2年)に建てられたものです。



紫式部の墓です。隣には閻魔大王の手伝いをしたという伝説のある小野篁の墓があります。いつ行っても花が供えられていました。堀川通りにあります。気をつけないと通り過ぎてしまいます。



御所の近くの「廬山寺」です。式部の邸宅があったと言われています。この「廬山寺」と道路を隔てた向かい側に「梨木神社」があり、京都三名水の一つ「染井の水」が湧いています。ただですが、料理人風の人たちが列を作っていて、なかなか順番が回ってきません。



滋賀県の石山寺の「源氏の間」です。式部はこの部屋から琵琶湖に映る月の光を見ながら物語の構想を練ったと言われています。奈良の長谷寺と同様に、当時の人々の信仰の場としてたいへん重要な場所でした。京阪石山寺からは、かなり歩くようになります。バス等を利用するのがいいと思います。

2 桐壺更衣

源氏物語 冒頭

いづれにせよ、この源氏物語は、古今東西の物語に比して、最も奇麗な物語である。その奇麗は、その内容の奇麗さだけでなく、その表現の奇麗さにもある。源氏物語の冒頭は、その奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。

源氏物語の冒頭

源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。

源氏物語の冒頭

源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。

更衣下がり死

源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の冒頭は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。

この冒頭の部分はどの教科書にも載っています。必ず暗記させることにしています。波乱含みの内容です。当時の帝はたいへんでした。お妃が多く、皆に愛情を注がなくてはなりません。しかし、桐壺帝は、桐壺更衣だけを愛します。

またお妃になった女性たちには大きな使命がありました。男皇子を産むと、その子が春宮、そして帝になる可能性があります。父親たちは、自分が権力を握るために娘をお妃にしているのです。これを外戚関係といいます。女性たちにもそのことが常識であったため、帝が一人のお妃だけを愛することに 怒りを感じるのは当然と言えます。「大鏡」を教える時もたいへん重要です。

桐壺帝にはすでに第一皇子がいました。弘徽殿女御は右大臣の娘で、親の期待通り男の子を産んでいたのです。桐壺更衣には父親はもういません。つまりだれも喜ばないのです。更衣はたいへん中途半端な立場にありました。

他その後たちのいやがらせによって、更衣は日々衰えていきます。そうした更衣を帝はますます愛おしくなります。母親の懇願でやっと里下がりが許された更衣でしたが、里に下がったその日亡くなります。帝の更衣への愛情が、更衣の死を早めたと言っていると思います。

3 六条御息所

源氏物語 六条御息所

源氏物語の六条御息所は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の六条御息所は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。源氏物語の六条御息所は、源氏物語の奇麗さを最もよく表している。



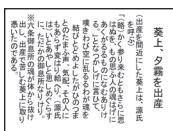
源氏を賜った源氏は十二歳で元服。左大臣の娘葵上と結婚します。源氏は自宅二条院から葵上のもとに通います。十七歳、夕顔と契り、夕顔の急死が教科書によく取り上げられますが、この夕顔の章から「六条」という言葉がさりげなくでてきます。夕顔が急死したとき、得たいの知れない女性が瞬間登場しますが、六条御息所・生霊の存在を匂わせています。源氏物語が「伏線の文学」と言われるのがよくわかります。

「葵」では、まず「車争ひ」です。御息所は亡くなった春宮のお妃で娘が一人います。立場上、再婚はできません。源氏との仲も清算したいと思っていますが踏ん切りがつかません。新しい斎院（賀茂神社に仕える宮家・未婚の女性）、斎宮は伊勢神宮に仕える宮家・未婚の女性）の視ぎの儀式の行列に源氏も参加することになり、大勢の人々が源氏の姿を一目見ようと集まります。御息所は源氏の晴れ姿を見ようと、わざと身分を低くみせた牛車で賀茂の御禊を見に行きます。懐妊中の葵上は、気乗りはしないものの、周りの勧めで見に行くことにします。源氏は、年上でプライドの高い葵上とじっくりいってはいませんでした。さて、葵上が到着したときは、すでに見物客でいっぱいでした。そこで目をつけたのが御息所の車です。葵上の供人は御息所の車に狼藉をはたらきます。車も心もズブズブになった御息所は来たことを後悔しますが、もう一人の御息所は葵上への憎悪を燃やします。



上賀茂神社 立砂

賀茂神社は、上賀茂神社と下鴨神社両方を指していると思われます。写真は上賀茂神社の立砂です。御神体である「神山（こうやま）」を形どったもので、神が降りる依代（よりしろ）と言われてます。



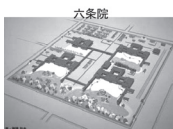
葵上・夕霧を出産

（田原）葵上、夕霧の出産は、源氏物語の葵上、夕霧の出産の場面を再現したものである。葵上、夕霧の出産の場面は、源氏物語の葵上、夕霧の出産の場面を再現したものである。葵上、夕霧の出産の場面は、源氏物語の葵上、夕霧の出産の場面を再現したものである。

葵上、いよいよ出産です。御几帳の中で源氏と葵上二人だけの空間ができます。背後には、物の怪調伏のお経が唱えられています。式部はこのお経を「いみじう尊し」と表現し、不気味感を高めています。六条御息所の魂が体から抜け出し、出産で苦しむ葵上に取り憑いたことがここでははっきりとわかります。容貌も変わった葵上を見て、源氏はだれかのぞきはせぬか不安にかられます。

4 明石君 身分違いのゆえに苦悩する明石君を紹介します。（ここでは省略）

5 その後を簡単に



六条院

後に源氏は、御息所の家を拡張して六条院という広大な屋敷を建てます。四つの屋敷が作られ、それぞれに源氏ゆかりの女性たちが住むようになります。西北の町だけが形が違うのがおわかりになるとと思います。他の三つの町は立派な寝殿造りです。なぜ明石君の家だけが？ここに身分の違いが表されています。北側の建物は倉庫となっています。明石君の実家からさまざまなものが送られてきて、それを保管したところです。多くの人々が住む六条院の食料庫と言っていいと思います。

6 付録です。



京都を歩いていると、思わぬ発見があります。銭湯の多さに驚かされます。～温泉とありますが、実際は温泉ではないようです。さて左の建物は、推理小説好きにはたまらない場所ではないでしょうか。連絡いただければ、行き方をお教えします。

7 終わりに

特に源氏物語を研究してきたわけでもなく、勝手な思いこみで源氏を教えています。読めば読むほどよく書かれた作品です。千年前にこれほどの文学が成立していたというのは、本当に驚きです。また京都は、何度行っても新しい発見のある土地です。趣味と研究を兼ね、写真を撮り続けたいと思っています。

（23年のオープンスクールでは、第2弾として「古典の舞台は今」と題して講座を開きました。懇話会の後、これにも付き合ってくださいの皆様にお礼を申し上げます。）

（ふじさわ・としゆき）